

大島　渚 監督作品

戦場のメリークリスマス

スタッフ

監督……………………大島渚
脚本……………………大島渚＋ポール・マイヤースバーグ
製作……………………ジェレミー・トーマス
原作……………………サー・ローレンス・ヴァン・デル・ポスト
撮影監督……………………成島東一郎
美術監督……………………戸田重昌
音楽……………………坂本龍一

キャスト

ジャック・セリアズ(英国陸軍少佐)……………………デビッド・ボウイ
ヨノイ(日本陸軍大尉俘虜収容所長)……………………坂本龍一
ハラ(日本陸軍軍曹)……………………ビートたけし
ジョン・ロレンス(英国陸軍中佐)……………………トム・コンティ
ヒックスリ(俘虜長)……………………ジャック・トンプソン

拘禁所長……………………内田裕也
イトウ憲兵中尉……………………三上寛
カネモト(軍属)……………………ジョニー大倉

ゴンドウ大尉(新俘虜収容所長)……………………室田日出男
軍律会議通訳……………………戸浦六宏
フジムラ中佐……………………金田龍之介

シネベンチャー・プロダクション、
レコーデッド・ピクチャー・カンパニー、
大島渚プロダクション、テレビ朝日、
ブロードバンク・インベストメンツ・リミテッド提携作品
カラー作品／ドルビーステレオ
松竹・松竹富士共同配給

DOLBY STEREO



MERRY CHRISTMAS MR.LAWRENCE

ラロトンガのロケ現場で大島監督は語った。

■解 説■

〝戦争〟という歴史の必然の中で偶然出会った男たち。ジャワ山中の日本軍俘虜収容所。所長のヨノイ大尉は「2・26の決起に参加できずに死に遅れた」エリート武官。彼の部下であるハラ軍曹は、何ら疑問を抱かず「御国に命を捧げ」天皇の赤子となった農民階層出身の典型的志願兵。そのハラが俘虜の中で唯ひとり信頼するロレンスは、「時の運」で俘虜となった日本語を解する英国軍中佐。そして、彼らの前に忽然と立ち現われ、自ら「禍いの神」をもって任じ、ヨノイの心に種子を蒔いた英国陸軍少佐セリアズ。

歴史の波間を漂いつつ出会った彼らは、全存在をスパークさせ衝突する。東と西、合理と非合理、個人と国家、生と死、そして、愛と憎……。さまざまな相克を経て、激しい思想闘争の末に到達した静寂、聖なる理解と寛容。だが、そのとき男たちを待ち受けていたのは、歴史の大きなうねりの中での必然的な別離であった。

あるクリスマスの夜、収容所内の司令室、酒でほの赤い形相を崩したハラは、独房から引き立てられてきたロレンスに「ふぁーぜる・くりーすます」と微笑みかける。意を解したロレンスは「あなたもやっぱり人間だ」と呟く。星霜を経て、歴史の皮肉は2人の立場を逆転させた。戦犯となったハラの許を訪れたロレンス。剃髪で僧呂の気品さえ漂わせるハラは、穏やかにロレンスと語り合う。そして別れのとき、ハラは時空を超えて「メリークリスマス・ミスター・ロレンス」と満面に微笑を浮かべて声を掛けるのだった（因みにこのラストシーンは小林信彦氏をして「世界映画史上に残るもの」といわしめた。キネマ旬報'83年1月上旬号）。

ある日、広大な収容所構内に俘虜全員が整列した。セリアズに対する愛と憎しみの振幅故に精神的瓦解をきたしたヨノイの命令によって。彼はその自己解体を自ら糊塗するかの如く、俘虜長に軍刀を振りかざす。そのとき、優雅に歩み出たセリアズは、ヨノイの肩をつかみ、両頰に唇を当てたのだった。全存在が砂のように崩れ落ちたヨノイはやがて更迭され、セリアズは処刑された。ほの青い月光にセリアズの金髪が照らし出された夜、ヨノイは彼の遺髪を一房切り、永遠の別れを告げるのだった。

このようなエピソードで綴られる男たちのドラマ。〝男騒ぎ〟のするこの作品は戦場が舞台になってはいるが、過去枚挙に暇のない「戦争映画」とは完全に一線を画し、昨今流行の「戦争の時代を描いた映画」にも痛打を浴びせかけるような新しいジャンルの映画だ。

監督は大島渚。黒澤明監督と並び世界的に有名な大島監督については多言を要すまい。'32年京都生まれ、'54年に松竹に入社し「愛と希望の街」（'59年）で監督デビューした。翌'60年、「青春残酷物語」「太陽の墓場」の2作で〝日本ヌーヴェル・ヴァーグ〟派の旗手となったが、有名な「日本の夜と霧」（'60年）事件で'61年松竹退社、独立プロ「創造社」を設立。以降、劇映画のみならずドキュメンタリーに至るまで幅広い活躍を続け、'75年、新たに「大島渚プロダクション」を設立し、'76年には日仏合作の「愛のコリーダ」を製作した。この作品はその年のカンヌ映画祭監督週間で上映され、国際的に高い評価を得た。そして、'78年の「愛の亡霊」ではカンヌ映画祭監督賞を受賞、世界的巨匠としての地位を揺るぎないものとした。「戦場のメリークリスマス」はその直後から企画を進め、4年の準備期間を経て完成した執念の一作である。

A FILMOGRAFY

●一九五八
明日の太陽（映画・7分）
●一九五九
愛と希望の街（映画・62分）
●一九六〇
青春残酷物語（映画・96分）
太陽の墓場（映画・87分）
日本の夜と霧（映画・107分）
●一九六一
飼育（映画・105分）
●一九六二
天草四郎時貞（映画・100分）
氷の中の青春（TV・25分）
●一九六三
忘れられた皇軍（TV・25分）
小さな冒険旅行（映画・60分）
●一九六四
愛すればこそ（TV・56分）
ある国鉄乗務員
4・17スト中止前後（TV・25分）
偽名少女（TV・25分）
仰げば尊し（TV・25分）
反骨の砦
蜂の巣城の記録（TV・25分）
チタニ世号太平洋横断（TV・50分）
青春の碑（TV・40分）
私はベレット（映画・60分）
アジアの曙（TV全13話・650分）
●一九六五
ユンボギの日記（映画・24分）
悦楽（映画・90分）
漁船遭難す
忘れられた台風災害（TV・25分）
●一九六六
白昼の通り魔（映画・99分）
●一九六七
忍者武芸帳（映画・131分）
日本春歌考（映画・103分）
無理心中・日本の夏（映画98分）



白昼の通り魔 愛と希望の街 悦楽 飼育 太陽の墓場 日本春歌考 忍者武芸帳 ユンボギの日記 天草四郎時貞 日本の夜と霧 青春残酷物語

「撮っている時がいちばん幸福(ハッピー)だ」——と

製作はジェレミー・トーマス。製作費約16億円、本格的な日英合作となったこの映画において、彼は卓越した手腕を発揮した。'50年生まれの彼の父親は監督のラルフ・トーマス（「三十九階段」'59年、「キッスは殺しのサイン」'66年）。初のプロデュース作品はオーストラリア映画の〝Mad Dog〟。この映画は'76年のカンヌ映画祭でジョン・フォード賞を受賞し、その受賞パーティーで大島渚監督と出会った。その後、イエジー・スコリモフスキー監督の〝The Shout〟（'78年カンヌ映画祭審査員特別賞受賞）やニコラス・ローグ監督の「ジェラシー」（'80年ロンドン批評家協会監督賞受賞）などを手がけている。今回の作品も国際派の彼にふさわしく、スタッフ、キャストの国籍は8ヶ国にも及んでいる。

この映画のキャスティングは実に絶妙。二度とこのような顔合わせは不可能だと思われるほどの〝役者〟が顔を揃えた。

魔性の魅力を漂わせるセリアズ役にはデビッド・ボウイ。彼はミュージシャンとしても俳優としても世界的なスーパースター。出演映画としては「地球に落ちて来た男」（'75年）「ジャスト・ア・ジゴロ」（'78年）などがある。また、'80年、ブロードウェイ「エレファントマン」の舞台で演技者として世界的に評価を受けた。このときに大島監督と会い、出演を快諾した。

セリアズによって精神的に瓦解していくエリート軍人ヨノイ大尉には坂本龍一。ＹＭＯのメンバーとして世界的に有名な彼は、'52年東京生まれ。映画出演は無論、今回が初めて。彼は役者としてだけでなく、この作品で音楽監督も務めている。「ナイーブなおじさん大島監督に惚れこんだ」という彼は、撮影から音楽製作まで約8ヶ月もの間、この映画に賭けた。



セリアズとヨノイが横糸とするならば、ハラとロレンスはこの映画に於て縦糸を織りなしている。そのハラ軍曹に扮するのはビートたけし。御存知スーパーアイドル〝たけちゃんマン〟は、「殺気のある男」と監督に口説かれ、超ハードスケジュールの合間を縫って撮影に参加した。剃髪となっての彼の天才的な演技には、外人スタッフ、キャストも驚愕していた。

この映画で〝語り部〟ともいえるロレンス役にはトム・コンティ。彼はトニー賞も受賞しているイギリスの有名な舞台俳優。映画では「デュエリスト」（'77年）などに出演している。日本語を解する役づくりのために彼は猛レッスンを受け、その〝流暢〟な日本語には監督も大きな拍手を送っていた。

他に俘虜長ヒックスリにはオーストラリアの名優ジャック・トンプソン、軍属カネモトにはジョニー・大倉、ヤジマ一等兵には本間優二、拘禁所長には内田裕也、イトウ憲兵中尉には三上寛、フジムラ中佐には金田龍之介が各々扮している。

ところで、この映画の原作は南アフリカ生まれ、イギリス国籍のサー・ローレンス・ヴァン・デル・ポスト著の『影の獄にて』（思索社刊）。彼の名は日本ではあまり知られていないが、作家としてだけでなく、探険家、ドキュメンタリー作家、思想家としても世界的に有名だ。原作は「影さす牢格子」「種子と蒔く者」「剣と人形」の3部構成。映画化に当たっては、大島監督自身とポール・マイヤースバーグがシナリオ化した。（上映時間2時間3分）

NAGISA OSHIM

●一九六八
絞死刑（映画・117分）
帰って来たヨッパライ（映画・80分）
大東亜戦争（TV・98分）

●一九六九
新宿泥棒日記（映画・94分）
少年（映画・97分）
毛沢東と文化大革命（TV・50分）

●一九七〇
東京战争戦後秘話（映画・94分）

●一九七一
儀式（映画・123分）
巨人軍（TV・72分）

●一九七二
ジョイ！バングラ（TV・25分）
夏の妹（映画・96分）
ごぜ・盲目の女旅芸人（TV・25分）

●一九七三
ベンガルの父・ラーマン（TV・25分）

●一九七五
生きている日本海海戦（TV・50分）

●一九七六
愛のコリーダ（映画・104分）
伝記・毛沢東（TV・65分）
生きている海の墓標
トラックの海底をゆく（TV・25分）
生きている玉砕の島
サイパンの海底をゆく（TV・25分）

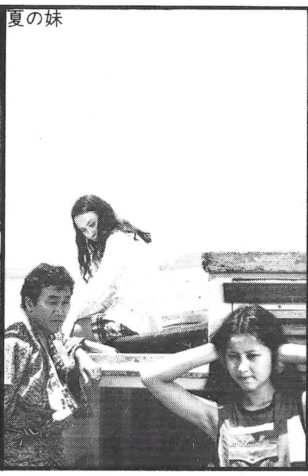
●一九七七
横井庄一
グァム島28年の謎を追う（TV・50分）
死者はいつまでも若い
沖縄学童疎開船の悲劇（TV・40分）

●一九七八
愛の亡霊（映画・108分）

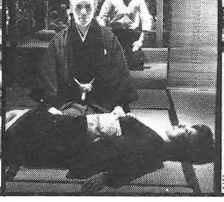
●一九八三
戦場のメリークリスマス（映画・123分）


愛のコリーダ


愛の亡霊


夏の妹


東京战争戦後秘話

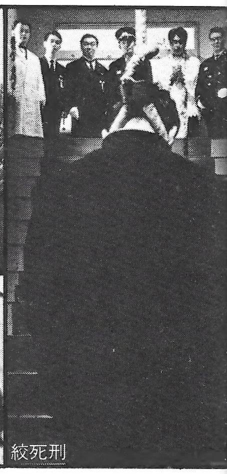

儀式


少年


新宿泥棒日記


帰って来たヨッパライ


無理心中・日本の夏


絞死刑

STAR MEMO


DAVID BOWIE

デビッド・ボウイ

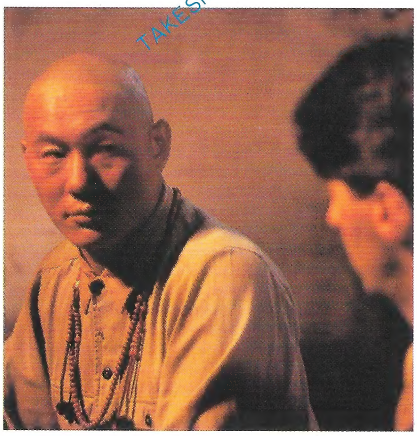
「禍いの神」セリアズを演じた彼は、'47年ロンドン生まれ。'64年、歌手としてデビューし、翌'65年、デビッド・ジョーンズ（本名）からボウイと改名。'67年に初のLP「デビッド・ボウイ」をリリース、'72年の全米ツアーの大成功により世界的なスーパースターとなった。'78年には来日公演し、日本に於ても多くのファンを魅了した。

また、演技者としては「地球に落ちて来た男」（'75年）「ジャスト・ア・ジゴロ」（'78年）などの映画出演のほか、'80年にはブロードウエイで「エレファントマン」を演じ、高い評価を得た。この舞台のときに大島監督と出会い、「戦場のメリークリスマス」出演を快諾した。


RYUICHI SAKAMOTO

坂本龍一

エリート軍人ヨノイ大尉を演じ、音楽監督も務めた彼は、'52年、東京生まれ。11才の頃から本格的に作曲を学び、中学時代にベートーベンのピアノ協奏曲3番に感動し、クラシックの作曲に熱中。高校時代、学園闘争、ヤクザ映画、ジャズ、ロック等の洗礼を受け、'74年、東京芸術大学作曲科卒業、'76年、同音響研究科修了。大学在籍中からリリィ・バンド、山下達郎バンドなどに参加、スタジオ・ミュージシャン、アレンジャーとして大活躍した。'78年、ソロアルバム「千のナイフ」を発表、その直後からYMOに参加した。'79年にはレコード大賞編曲賞を受賞した。最近はYMOの活動とは別にプロデューサーとしての手腕を発揮、加藤登紀子、美空ひばり、郷ひろみなどのアルバムを次々と発表している。


TAKESHI

ビートたけし

「殺気のある男」と監督に口説かれ、典型的日本兵ハラ軍曹を演じた彼は、'48年、東京生まれ。'73年、ツービート結成、MANZAIブームの中に毒ガス旋風を巻き起こした。その後の超スーパーアイドルとしての大活躍はいうまでもない。漫才だけでなく司会、DJ、ドラマ……と縦横無尽、神出鬼没。出版物も大ヒット、「ツービートのワッ毒ガスだ！」が100万部を突破したのをはじめ「三国一の幸せ者」「幸せひとり占め」もベストセラーとなった。また、音楽では「足立区バンド」を率いてコンサート活動を続けている。この映画の公開とほぼ同時期に、坂本龍一と組んだレコードも発売される。映画出演は「すっかり……その気で！」（'81年）など。現在（'83年4月）、TV、ラジオのレギュラー週10本といういまさに超人的なスーパーアイドル。


TOM CONTI

トム・コンティ

この映画で"語り部"ともいえるロレンスを演じた彼は、スコットランド生まれ。グラスゴーの"Citizen's Theatre"で演劇を学び、ローヤル・シェイクスピア劇団に参加、舞台俳優として高い評価を得、ブロードウェイの「この命誰のもの」ではトニー賞を受賞した。また、TVシリーズでも大活躍をし、'76年には"The Glittering Prizes"で"Best Television Actor"の栄誉に輝いている。映画では、日本公開作品は「デュエリスト」（'77年）だけだが、"The Wall" "Blade on the Feather"などに出演している。この作品で日本でも多くのファンを獲得することは間違いない。

ジャック・トンプソン

俘虜長ヒックスリを演じた彼は、オーストラリアの国民的俳優。クィーズランド・ユニバーシティーで演劇を学び、"Outback"で映画デビュー。その後、TVシリーズ"Spyforce"で「オーストラリアで最も著名な役者」としての評価を定着させた。また、国際的には、"Caddie" "Mad Dog Morgan" "Breaker Morant" "The Chant of Jimmie Blacksmith"などの映画出演でその名を馳せている。


JACK THOMPSON

内田裕也



拘禁所長を演じた彼は、'39年、神戸生まれ。高校時代よりロックに熱中し、ロック馬鹿を自認しており、今や日本ロック界のボス的存在。

俳優としての主演第1作は、'77年、ATG映画「不連続殺人事件」。その後、「最も危険な遊戯」「桃尻娘」「水のないプール」などに出演している。最新作「十階のモスキート」では、製作も手がけている。

三上 寛



イトウ憲兵中尉を演じた彼は、'50年、青森生まれ。'71年、全日本フォーク・ジャンボリーに出場、異色歌手として脚光を浴びた。その後、音楽活動のかたわら、'74年、ATG「田園に死す」に出演して以降、俳優としても幅広い活躍を続けている。主な出演映画は「新・仁義なき戦い・組長の首」「沖縄やくざ戦争」「新・人間失格」など。

ジョニー大倉



軍属カネモトを演じた彼は、'51年、川崎生まれ。'72年～'75年、ロックグループ〝キャロル〟のメンバーとして人気を博した。グループ解散後、ソロ活動、作曲・作詩・映画音楽と幅広い活躍を続けている。また、役者としては、「総長の首」「青春の門（自立篇）」「遠雷」などの映画のほか、TVドラマにも多数出演している。

室田日出男



新収容所長ゴンドウ大尉を演じた彼は、'37年、北海道生まれ。'57年、東映第4期ニューフェイスに合格、数多くの東映やくざ映画に出演。深作欣二監督の「仁義なき戦い」シリーズで一躍注目を集めた。その後、川谷拓三らと〝ピラニア軍団〟を結成、映画のみならず、TVでも大活躍を続けている。

戸浦六宏



軍事会議通訳を演じた彼は、'30年、大阪生まれ。京大時代、大島監督とは同窓。その縁で「太陽の墓場」で映画デビュー。その後、「日本の夜と霧」「飼育」から「儀式」「夏の妹」までほとんどの大島作品に出演している。また、他の監督作品でも精力的に活躍し、知性と悪意とが混沌とないまざった名バイプレイヤーとして'60～'70年代に印象深い足跡を残した。最近ではTVドラマにも多数出演している。

金田龍之介



フジムラ中佐を演じた彼は、'28年、東京生まれ。父が興行師だった関係で5才のとき初舞台を踏む。その後、しばらくのブランクを経て、'56年明治座の「赤線地帯」に初出演以来、舞台での活躍を続けている。映画は「悪名十八番」がデビュー、やくざの親分役などを多数こなす一方、「華麗なる一族」「犬神家の一族」「霧の旗」などにも出演している。



エピソード集

■原作について

原作者サー・ローレンス・ヴァン・デル・ポストは、一九二六年、十九歳のとき、日本——南アフリカ航路のカナダ丸船長、森勝衛氏と知り合い、日本に滞在。その後、世界で孤立しつつあった日本の擁護論をロンドンを中心としたジャーナリズムで展開した。皮肉にも第二次大戦中、ジャワで彼は日本軍の俘虜となり、日本語が多少できるということで連絡将校をやったりしていた。この経験が、この映画の原作「影の獄にて」に色濃く出ていることはいうまでもない。

ハラとロレンスの関係を描いた「影なき牢格子」ヨノイとセリアズの「種子と蒔く者」など三部作構成になっている原作を大島監督は一つにまとめ、原作の味をこわさず映画化した。

一九五二年「影なき牢格子」が発表されたとき、英国では主人公ハラの性格の解釈をめぐって大きな議論がまき起り、日本人を良く描きすぎているといって、批判の方が多かったという。

■映画化の決意について

大島監督は一九七八年「愛の亡霊」でカンヌ映画祭最優秀監督賞を受賞したが、その後すぐ、この原作を読んで映画化を思いたったという。「愛のコリーダ」「愛の亡霊」と二本つづけてフランス資本で撮った大島監督は今度は日本の資本を探しはじめたが、当初予算で約十億円かかった大作、簡単には見つからなかった。その間シナリオは何回も書きかえられ、さらに英訳、と地味な作業が続けられた。

■デビッド・ボウイが二年待ってくれた!

資金探しと併行して、主役のひとりセリアズを誰にするかが問題だった。ロバート・レッドフォードという案もあり、大島監督も当人に会ったが、これは役柄的にもムリで、次に思いついたのがデビッド・ボウイだった。

美男で神秘的で気品がある…そんな原作にあるイメージに最も近い!大島監督は一九八〇年の暮れ、ニューヨークであの「エレファントマン」をブロードウェイで上演中のボウイに会った。大ヒットのこの戯曲によって歌手としてでなく、演技者として超一流になった彼は、「シナリオを読んで興奮した。すぐやりたい」と大島監督の手を握った。そしてスケジュールが決まっていないにもかかわらず、「いつでも映画のスケジュールに合わせて体を空けます」と最大限の好意ぶり。結局クランク・インは一九八二年の八月。ボウイは二年近く待っていてくれたことになる。

■〝おもしろオジサン〟に興味を持った!

ヨノイ役も色々な候補が出た。しかし、スケジュールが決ま



らないため、これも難航、多くの人がやりたがったが、坂本龍一が、最終的にはスケジュール調整をしてくれて、これまた、彼以外には考えられない、というヨノイを演じた。映画初出演の坂本龍一「大島渚という画白そうなオジサンと仕事をしてみたくなって」出演を受諾した、と記者会見で語ったが、この映画へのイレ込みぶりはすごいものがあり、映画を見た後、大変印象に残る音楽を書き、演奏するため、二百時間もの間スタジオにこもり切りで仕事をしたという。

■製作費16億円！初の本格的合作

映画化を思いたって五年。82年初めには、外国資本が半分出資することが決定。日本側もテレビ朝日が出資。松竹が配給してくれることになり、日本で初めての50%ずつの海外資本との合作がスタートした。製作予算は630万ドル。撮影当時は円安で、換算すると何と16億円の製作費となった。ニュージーランド自治領のラロトンガ島及びオークランドで10週間の撮影が行われたが、総勢400人を超えるスタッフ、キャストが、人口7千人のラロトンガに滞在したので、島の人口は一気に一割近くも増加した。島には本格的なホテルが唯一つ、そのホテルを借り切って、南太平洋の明媚な風光の中、ロケは続けられた。

■たけしが参加した！

4人の主人公のうち一番最後に決まったのがビートたけし。原作によれば、猫背でガニ股で小柄な典型的日本の下士官タイプで、ただ眼だけは美しく輝いている、という男だが、何やら、原作者のヴァン・デル・ポストはたけしをモデルにしたのではないか、と思うほど、この映画のたけしはピッタリしている。

日本一忙しい男たけしは、皆より遅れてロケに参加したが、たけしにハラ役が決まったというニュースが流れたとき、大島監督のもとには二種類のリアクションがあったという。「たけしに目をつけるとは、さすがに大島さん！」という声と「大丈夫ですか？」という声があったという。

もともとテレビのレギュラーが一緒であったりして旧知の仲だった大島監督とたけしは、お互い一緒に仕事をするとは思わず、映画好きのたけしに大島監督がアドバイスしていたりしていたという。映画完成後のリアクションについてはもう言葉はいらないだろう。「大丈夫？」と聞いた人たちも、すべて「ハラはたけししか考えられなかった」と今では語っている。

■一躍有名になったラロトンガ島

この映画の撮影が行われるまで日本人が49人しか訪れていなかったというラロトンガ。国際空港を持っている島で、最も素朴で、最も美しい最後の楽園。長期ロケの最中、美しい風景だけで他に何もない、この島に飽きていたスタッフ、キャストも、日本に帰って来たときには、異口同音に「もう一度外国へ行くならラロトンガ！」と叫んでいた。


KS






KS

42年、日本軍俘虜収容所。

物語



硝煙に浮かび上がるヨノイとセリアズ

1942年、ジャワ(現インドネシア)。

大きな波がうねるように続く山岳地帯の谷間レバクセンバタに、600名の俘虜を収容する日本軍の俘虜収容所がある。

まだ夜が明けきらない薄闇の中、日本軍軍曹ハラは、将校宿舎に起居する英国軍中佐ロレンスを叩き起こし、閲兵場に引き連れてゆく。広場にはオランダ兵デ・ヨンと朝鮮人軍属カネモトが転がされている。カネモトはデ・ヨンの独房に忍び込み、彼を犯したのだ。ハラは独断で処置することを決め、万一の時の証人として、流暢に日本語を操るロレンスを立ち合わせたのだった。そこへ、収容所長ヨノイ大尉の気合が響いてきた。咄嗟に大声でヨノイを呼ぶロレンス。彼を殴り倒すハラ。その隙をついて、カネモトは傍らの兵士の銃剣を抜き取ると、一気に自分の腹に突き立てた。

そのとき、剣道着姿のヨノイが従卒のウエキ伍長とヤジマ一等兵を従えて現れた。瞬時にして状況を察したヨノイは、ハラに後刻の報告を命じて、軍律会議出席のためバタビヤ(オランダ領時代のジャカルタの呼称)へ向かった。

バダビヤ市内の第十六軍拘禁所にある法廷では、英国陸軍少佐ジャック・セリアズの軍律会議が開廷された。終始一貫、冷静に無罪を主張するセリアズ。その金髪がまぶしいかの如く、審判官たちは被告人と眼を合わせようとはしないが、唯ひとり、ヨノイだけは魔に魅入られたかのような異様な眼差しでセリアズを凝視するのだった。

「判決は有罪、死刑。只今より刑を執行する」という拘禁所長の声が処刑場に響き渡る。衛兵の助けを振り切って独力で処刑柱まで歩み寄ったセリアズは、両手首を鎖で柱に繋がれながらも、頑なに目隠しを拒む。「撃て!」銃声が轟いた。やがて、薄れ始めた硝煙の向こうに、立ったままのセリアズの姿が浮かび上がる。銃は空砲だったのだ。「ひどいもんだ」と呟やくセリアズ。その背後から、ヨノイがゆっくりと歩み寄る。



掃射兵(ストラッファー)ジャックと生の恥辱

セリアズはレバクセンバタ俘虜収容所へ送られてきた。虫の息で運び込まれたセリアズを見て、ロレンスは驚愕する。かつての戦友だったのだ。思わず駆け寄るロレンス。ヨノイはハラに、セリアズをすぐに医務室へ運ぶよう命令する。

ヨノイはロレンスを呼び、セリアズについて問い質した。「掃射兵ジャック、彼は最高だ。しかし、何故彼のことを訊く?」そこへ俘虜長ヒックスリが連れてこられた。ヨノイは彼に、俘虜の内、兵器、銃砲の専門家の名簿をよこせと命ずる。敵に有利となる情報を提供するわけにはいかないと拒否するヒックスリに、ヨノイは命令に従わなければ俘虜長を交替させると告げる。ロレンスはこのとき初めて、ヨノイの意図を知った。

ある夜、デ・ヨンの保護のために病棟に泊り込んでいるロレンスの許にハラが忍び寄ってきた。彼はロレンスに、ヨノイが混乱を招いてまでもセリアズを俘虜長にしたがっている理由を問い詰める。それほど立派な将校なら、生きて俘虜の辱めを受けるはずがない、というのがハラの論理だ。「ろーれんす!お前は何故死なないんだ!なぜ自決しないんだ。お前ほどの将校が、何故こんな恥に耐えられるんだ」と迫るハラ。ロレンスは、俘虜になるのは時の運、生き延びるのは決して恥ではない、と答えるのだった。



そのとき、ヤジマと共にヨノイが現れた。彼は、懐中電灯に照らし出されたセリアズの顔を凝視する。そして、傍らの医師に「早く治せ!」と告げ、身を翻して立ち去った。

ヨノイの稽古場にハラが現れ、気合の鋭さに俘虜が怯えているため、ロレンスが面会を申し入れている、と告げる。そんなロレンスに、ヨノイは唐突に、自分は二・二六事件の3ヶ月前満州に左遷されたため決起に参加できず、死に遅れたのだ、と語った。そして、その場にハラを呼びつけると、カネモトの処刑をい渡した。

〈行(ぎょう)〉と赤い花

処刑場にはヒックスリ以下俘虜側の上級将校も強制的に立ち会わされ、カネモトは震える手で腹に短刀を突き立てる。ハラがカネモトの首を切り落とした瞬間、デ・ヨンが舌を噛み切った。「あっぱれだ。礼を尽くせ!」と命ずるヨノイ。俘虜たちは礼砲を無視して立ち去ろうとする。銃を構えた日本兵が行手をさえぎる。「お前らは部下の兵士の死にさえ敬意を払わないのか!」と怒鳴るヨノイにロレンスは「あなたは間違っている」と迫る。激昂したヨノイは、収容所の全員に48時間の謹慎と断食の〈行〉を命じる。

〈行〉を行っている病棟で点呼が続く。セリアズがいない。軍属が報告に出て行こうとしたそのとき、紅い花でいっぱいになった籠を抱えたセリアズが戻ってきた。この花は食い物だ、とセリアズ。彼は「デ・ヨンのために」と、花を一輪ずつ患者に手渡す。花の下には饅頭が隠してあった。歓声を上げる患者たち。彼らは讃美歌を歌い、デ・ヨンのベッドに花



禍々(まがまが)しき予兆――ジャワ19



を供える。そのとき突然、査察の兵が入ってきた。動揺する患者たちにセリアズは歌い続けろといい、デ・ヨンのベッドに腰を下ろす。デ・ヨンのベッドを発見した兵士たちは、デ・ヨンのベッドを見咎め、セリアズを詰問する。彼はゆっくりと手を伸ばし、花を口の中へ入れてしまった。兵士たちは彼を殴りつけ、引き連れていく。

そこへヨノイの乗ったジープが急停止した。騒ぎを知って、ハラとロレンスも駆けつける。ヨノイはセリアズを見つめ、「お前は禍いの神か！」と言葉を投げつける。「そう。お前にとっての禍いの神でありたいものだ」と花を食べるセリアズ。ロレンスは「彼は禍いの神などではない。人間だ。迷信を捨てろ！」と叫ぶ。

禍いの神とボーイソプラノ

ロレンスとセリアズは独房入りとなった。ある夜、ヤジマがセリアズの独房に忍び込み、銃剣を構えた。気配を察したセリアズは身軽にヤジマをねじ伏せ、手刀で気絶させる。房を抜け出したセリアズは拷問を受けたロレンスを救い出し、出口へ向かう。その眼前に突然ヨノイが現れた。身構えるセリアズ。暫しの静寂。まじろぎもせず正眼に構えるヨノイ。が、ふとセリアズは構えを崩し、剣を大地へ突き刺した。

切腹したヤジマの葬儀。ハラの静かな読経。黙禱するヨノイの前に、ロレンスが連行される。ヨノイはロレンスを処刑する、と告げる。「罪があれば誰かを罰せねばならない」とヨノイ。「私はあなたの秩序への信仰のために死ぬのか」とロレンス。2人のやりとりなど耳に入らぬかのように、ハラの読経は続く。

再びロレンスは独房に運ばれ、セリアズの隣の房へ入れられた。壁越しに話をする2人。ロレンスはシンザポール陥落直前、たった2度しか会わなかった女性の思い出の中へ。膝を抱えたセリアズの耳許に、美しいボーイ・ソプラノの歌声が流れてくる。懐しい弟の歌声だ。内向的だった弟。セリアズにとって幼年時代の弟との思い出は今でも胸を締めつける。衛兵の長靴の足音が聞こえてきた。死の覚悟をするロレンス。だが、意外にもセリアズも共に引き立てられていった。

抱擁と死

司令室に連行された2人が見たのは、酒で上気し、ほのかに赤くなっているハラの微笑だった。「ろーれんすさん。ふあーぜる・くりーすます。御存知かな？」とロレンスに笑いかけるハラ。一瞬理解できなかったロレンスは視線を宙に彷徨わせ、ようやく察して笑い返す。「知ってますよ、ハラさん。ファーザー・クリスマス。サンタクロースのことですね」満面に笑みを湛えたハラは、満足気に繰り返す。「今夜、今夜、私、ふあーぜる・くりーすます！」

そこへ兵士がヒックスリを連れてきた。ハラは咄嗟に笑いを止め、2人に「この男と一緒に帰ってよろしい」といい渡す。3人が部屋を出ようとした瞬間、腹の底からしぼり出すようなハラの蛮声が響く。「めりい・くりすます、ろーれんす！」振り向くロレンス。「ろーれんす！」相変わらずのハラの笑みがあった。



ヨノイの命令で、俘虜全員が閲兵場に整列させられた。完全武装で取り囲む日本兵。病棟の俘虜たちがいない。半死の病人たちをかばうヒックスリに、激怒するヨノイ。彼は再び、兵器の専門家は何人いるか、と問う。「おりません」とヒックスリ。ヨノイは「斬る！」と鋭くいい放つ。軍刀が抜かれる。そのとき、俘虜の群からセリアズが優雅に歩み出た。ヨノイに近づくセリアズ。彼は両手でヨノイの腕をつかむと、彼の頰に唇を当てた。後ろに崩れ落ちるヨノイ。次の瞬間、従卒兵がセリアズに飛びかかり、他の日本兵も加わり、殴りかかるのだった。



ヨノイは更迭され、新任のゴンドウ大尉が着任した。閲兵場の中央に深い穴が掘られた。セリアズが首だけ出して生き埋めにさせられる。ある夜、月光の中から静かにヨノイが現れた。無残な形相となったセリアズの頭に近づき、彼は金髪を一房切り落とす。そして、正面に回り、威儀を正して敬礼し、ヨノイはどこへともなく立ち去る。セリアズの死顔に白い蛾が一匹とまっていた。

メリークリスマス・ミスター・ローレンス

時は流れ、1946年。戦犯を拘置している刑務所の前に1台のジープが止まり、ロレンスが降りてくる。処刑を翌日に控えたハラに面会にきたのだ。「きてくれると思っていました。ロレンスさん」とハラは初めて英語で話しかける。ロレンスは、ヨノイから日本の神社に捧げてくれとセリアズの遺髪を託されたことを告げる。クリスマスの日の思い出を語り合う2人。やがてロレンスは思いを振り切るかのように立ち上がり、ハラに深々と頭を下げて出口へ向かう。扉を開けようとした瞬間、収容所で何度も聞かされたあの蛮声でハラが怒鳴る。「ろーれんす！」。振り向いたロレンスの眼前にハラの笑顔が広がる。

「めりい・くりすます。めりい・くりすます、みすたあ、ろーれんす」






MERRY
CHRISTMAS
MR.LAWRENCE

タケシのロケ日誌



ご存知のようにビートたけしは最も忙しい日本人である。その彼が、何と3週間もの間この「戦場のメリークリスマス」のロケに参加した。もちろんデビッド・ボウイ坂本龍一などは10週間のロケ参加であったわけだが3分の1とはいえ、たけしが3週間も日本を空けたというのは、近来の芸能界においては大ニュースだったのだ。

したがって彼は、皆より遅く参加し、早く帰って来たのだが、そのためロケ情報がまだ撮影している最中に、たけしの手によって(いや口によって)日本全国に流布された。以下はたけしの報告に基づくロケ日誌の聞き書きである。これは、事実であるかどうか定かではない。しかし、今や、このうちのいくつかは伝説として厳として、あったと信じられているものである。







大島渚怒号事件

'82年8月1日には、大島渚監督以下メインスタッフがラロトンガ島入り、8月15日にはデビッド・ボウイ、トム・コンティが、8月22日には坂本龍一以下日本キャストが到着、本格的撮影に入った。8月28日、たけしが到着。早朝着いて、すぐそのまま撮影現場へ。旅疲れのため、たけしはセリフを良く覚えていなかった。イライラした大島監督は、度々セリフを間違えるたけしに対し、「何をやってるんだ!」と怒鳴りかけたが、「怒ったら日本

伝説の誕生



へ帰る」とたけしが宣言していたことを思い出し、すぐ隣の役者を怒鳴った。

怒られた役者はキョトンとして何のことやらわからず、たけし一人だけがクスクス笑っていたという。

証言――大島監督「僕がたけしを怒鳴りかけたなんて、まったくのウソ。何せ彼は先に帰国して言いたいことを言っているんだから。こっちが一ヵ月後に帰って、いくら違うといってもどうにもならないんだよ」

1時間のリハーサルが無駄に

大きなヤシの木で作った門が左右に開き、たけしが俘虜を連れて収容所の門を入ってくるシーン。大島監督は左右の門を開ける当番兵役の役者に、「いいか、ここは左右が同時に開かなくてはいけないんだ。よしリハーサル！」と入念に打ち合わせ、何度も何度もリハーサルを繰り返し、いよいよ最終リハーサル「OK！今のタイミングでいい、よし本番いこう！」といった途端、助監督が「監督、門が壊れました！」と駆け寄って来た。「門が何だっていうんだ！そんなのどうでもいい！開け放しとけ」周囲はキョトン。何のために長い間リハーサルをやったんだろうね。

証言――伊藤助監督「入念なリハーサルのあと、いきなり『開けとけ！』でしょ。びっくりしました。でも本当は、皆の気分が乗ってきたところで、壊れました、という発言をした僕がいけないので、あれはあれで撮るというのが正解だということが今ではよくわかります」

とかげのアカデミー賞事件

ファーストシーン。とかげのアップで南方の雰囲気を出しているところ、とかげを3秒位止めて撮ってから、収容所内部をうつしたいのだが、何せとかげがいうことを聞いてくれない。すぐ動いて画面から外れてしまう。何度やり直しても、どうにもならない。スタッフの一人が、「少しとかげの頭を殴って、弱めたらどうですか？」「ウン、それはいいアイデアだ」と、とかげの頭をポカリ。今度はとかげは動くどころか、その場へポタリ。「今度はとかげにキューを出しましょう」「ウン、そうしよう」そんなことしてもとかげがいう事を聞くわけはない。とうとうイライラした大島監督、とかげに向かって「お前はどこのプロダクションだ！」

あとでたけし、「もしこの映画で誰かがアカデミー賞をとるとすれば、あのとかげだな」

証言――大島監督「あれは本当はとかげでなくイモリなんだ。それと僕が、どこのプロダクションだ！と怒鳴ったというがそんな事実はまったくない。ただ、その時僕はイライラして、怒鳴りたい気分だったのは本当だ。たけしさんは忙しい中で、僕のそんな気分も察知して話をこしらえ上げたんだろうが、天才だね、やっぱり」

坂本龍一うなぎ事件

たけしがラロトンガに着いて10日後、後からやって来た宣伝マンの差し入れが、うなぎのかば焼き。それをたけしとジョニー・大倉、そしてたけしのマネージャーの菊地さんが食べ終ったとき、坂本龍一が現われ「あれ！何食べてんの。あ！きたないなァ、俺なんかタケちゃんより一週間も早くこっちへ来てんのに食べさせてくれないんだから、こうなったらうなぎを食べさせてくれない限り明日から撮影に行かない！」とダダをこねた。すっかり困りはてた、たけしとジョニー・大倉。スタッフ中かけずり回って、やっと一個うなぎを入手、坂本龍一にうな丼を作ってやったら、坂本、何と涙を浮べながら食べたという。

証言――坂本龍一「あのうなぎ、本当にうまかったなァ。涙を流したというのはかなりオーバーだけど、うなぎを食ったと聞いて、怒ったというのは本当なんだ。着いてから2週間ちょっとなんだけど、その頃が一番、つらかった時期だったからね」

証言――宣伝マン「あれは僕がたけしさんだけに差し入れをしたように受け取られているけど、実はマネージャーの菊地さんに差し入れたんです。全部で6パックのうなぎを差し入れ、一つ残ったのを菊地さんにあげたので、たけしさんや坂本さんには当然渡っていると思っていたんですが…。一体、あの残りのうなぎは、どこへ消えたんでしょうかね？」

ジョニー・大倉とたけしのマリファナ事件

ラロトンガは、この世の別天地のような島だが、長くいると、それだけ退屈になる。何せ、島を一周しても車で40分もあれば終ってしまう。やることがない。日常的にヒマというものを知らないたけし、「そうだ！こんな南方の島だものマリファナ位あるよな」「そうだ、そうだ」とジョニー・大倉。小さな島だけど何やら怪しげな連中もいる。スタッフの中にその怪しげな男たちと親しいのがいる。

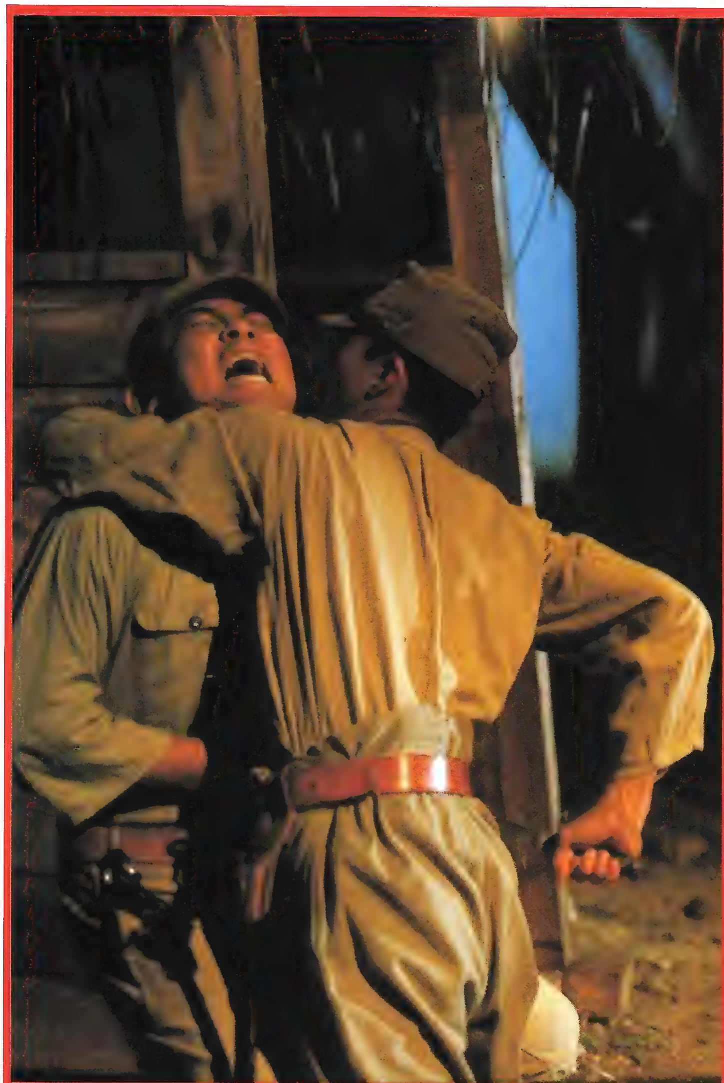
すぐにそのスタッフをそそのかしたたけし、マリファナ入手にとりかかった。スタッフ、ギャングっぽい男になにやら片言で密談。「きまりました。明日、同じ時間にここで、10ドルでマリファナです」と得意気。翌日、胸ときめかせて出かけた三人。昨日の怪しげな男が近づいてくる。手には何やら握りしめて。よく見ると、向うも10ドル持ってやって来るではないか！

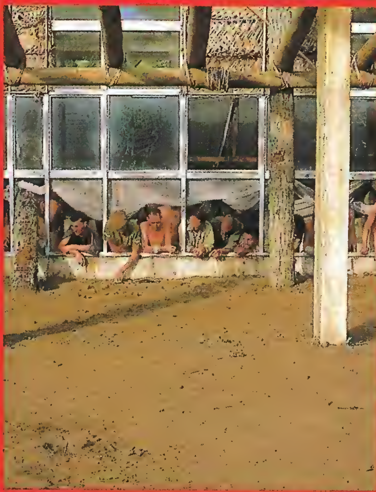
証言　――あるスタッフ「とにかくたけしさんは話を作るのがうまいから、こんな話どこまで信じていいのかわからないけど、あの人は不思議なんで、現場で日本語で冗談をいっているんだけど、デビッド・ボウイあたりがゲラゲラ笑うんですよ。とにかく外人スタッフのウケもいいし、ヘンな人ですよ」



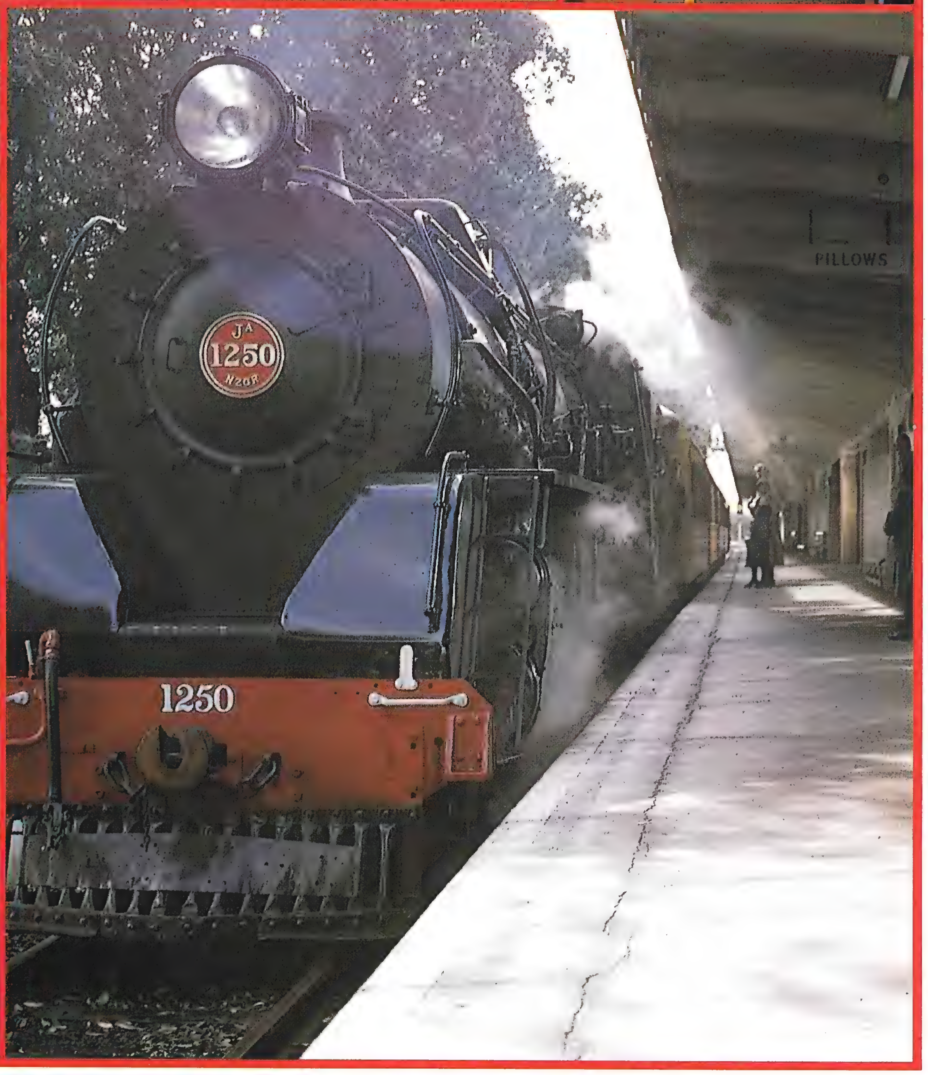








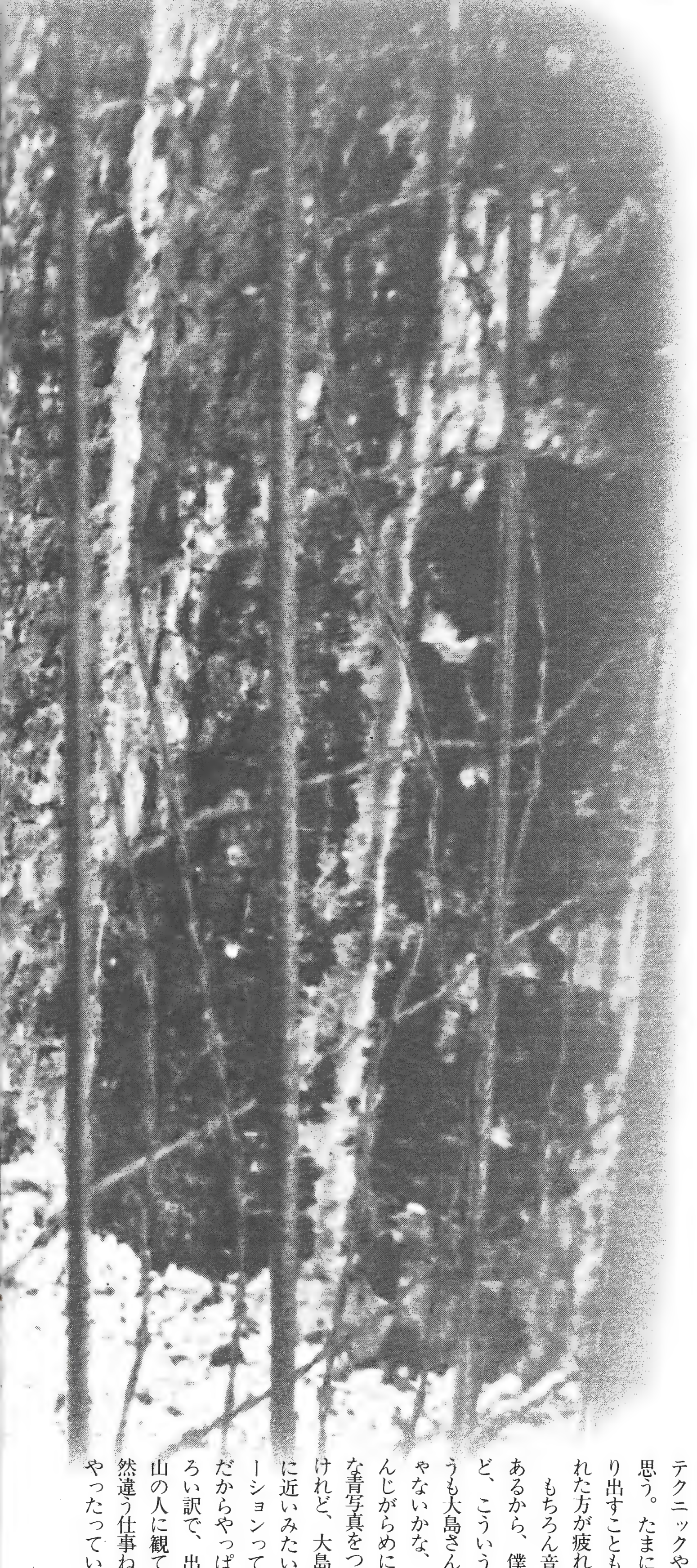
KS



1250
1250
PILLOWS

かせてもらったら、音楽が聞こえて来た。



坂本龍一
RYUICHI SAKAMOTO



もともと、「戦メリ」のサントラをやるっていうのは僕の方から言いだしたんです。で、大島さんはプロデューサー（ジェレミー）がいいって言えばOKということで……。僕としては役者を演る、映画に出演するっていうのは、それだけでは魅力あることじゃあなかったので（そんなこと言うとおこる人もいるかもしれないけど）、やっぱり今までやったことのない映画音楽っていうものに是非挑戦してみたかった。それに狭い音楽業界だけで仕事しているよりはるかに色んな人に出会える訳だし。役者演ることもあくまで音楽活動のテリトリーを拡げることが主眼ですね。僕がタレントになっちゃったらおもしろくないですよ。僕がおもしろいタレントになれる訳ないもん。元々僕は人前に出ることが大っ嫌いで、子供の時からクラスの人気者っていう存在じゃないし、他人に喜ばれることが好きじゃなかったし、その為に努力したこともなかった。要するにおもしろくない奴なんですよ。そんな奴が画面に出てて、他人様が観ておもしろい訳がない。ダメですね。だから今後気をつけてなるべく出ないようにします。今回のはたけしが補なって余りありますから、ドーゾ平にお許しを。で、音楽は会ったり見たりしておもしろくない奴がつくっても、そいつがつくった音楽はおもしろい、という場合がありますんで、というのも音楽をつくるっていうのはとても個人的な作業ですから、他人を笑わせよう、とか楽しませよう、という暇はない訳ですね。だからなかなかやってるなっていう作曲家なんて、会っていてそんなおもしろい奴いないですよね。だけどそいつがいい音楽つくっていれば、おもしろくない顔していても、他人は「シブイッ」とかなんとか言っちゃうんですね。僕なんかは最近、他人に会ったりすると、おもしろいこと言わなきゃ、なんて思ったりするんで、自分で「精進が足りないっ」と反省してますが……。

そーですね。ラロトンガに行ってて、まあ太陽と海と果物ばっかりのいい環境で、さぞかしインスピレーションが湧いたでしょう、なんてこと聞いてくる人がいますが、ダメですね。あんなとこじゃあ音楽やろうなんていう高尚な気持おこらない。だって気分でしょう、音楽つくるなんて。つくりたいっていう気分がおきなきゃ誰もつくらない訳だから、そうしたら太陽と海で一日終っちゃうところにいてそういう気分になりませんね、少なくとも僕は。朝起きて目の前に南極まで通じている大洋を眺めて朝食を摂り、役者演って帰って来て、バーで夕陽の沈むのを見ながらニュージーランド製のヴァイリーマっていうビールを飲む。こんなことしてては創作意欲がおこりません。でもたった一度だけ撮影の合い間にカメラマンの杉さんにファインダーを覗かせてもらった時、音が聴こえてきた。メロディーのないたった一音の音だけど、無数の音がひしめきあっている、そんな感じの音群。後に東京でラッシュを見た時、その音群を想像しながら見ていたけど、悪くないのでそのアイディアは実現しました。ヨノイが「行」をするシーンです。

アイディア、思いつきは多ければ多い程いいと思ってます。それらは音をつくる時のキッカケなんで、実際つくり始めると現実的な制約の中におかれてどんどん変化していきます。そして最初の思いつきとは全然違ったものになったり、たまにはもっと良くなったりするので、その瞬間がとても楽しみな訳です。これは他人にはどうしても伝えることのできない快感です。これがなるべく沢山おこってくれるとノッてくる訳で、だからキッカケとしてのアイディア、思いつきはなるべく多い方がいいし、それらを実現する時には、なるべく偶然の介入する余地が多い方がいい訳です。そしてその偶然が自分にとって快感につながる方向に操縦できればいい訳で、それがテクニックや経験の量できまってくるんだと思う。たまに思いつきも力技で無理矢理ひねり出すこともあるけれど、無意に出てきてくれた方が疲れなくていいですね。

もちろん音楽をつくるのも色んなやり方があるから、僕もいつもこれだけではないけれど、こういうのが一番おもしろいですね。どうも大島さんの映画のつくり方も似てるんじゃないかな、と思ってます。人によってはがんじがらめにアイディアをだしていって完璧な青写真をつくってからやる人もいるだろうけれど、大島さんのやり方は基本的に僕の方に近いみたい。管理されたインプロヴィゼーションって言ってみたら近いかな・・・。だからやっぱりつくっている時が一番おもしろい訳で、出来てしまったら後はなるべく沢山の人に観てもらう様に努力する。これは全然違う仕事ね。両方やる人もいるし、分業でやったっていい訳ですよ。大島さんも僕も両

撮影の合い間に、カメラのファインダーを覗



方やってる。両方ともおもしろいですよ。だけど全然、別。別の仕事。

びっくりしたのは映画っていうメディアにとっていかに言葉が強い力をもってるかっていうことね。正直言ってラッシュを観た時はビビリました。そりゃあ、いかに素人とはいえ、一所懸命やりましたよ。恥かきたくないし、後で自己嫌悪にはなりたくないから。他の役者さんだって同じでしょう。スタッフも同じ。皆一所懸命つくってました、現場で。それがラッシュを観た時は、ぼくは初めてなもんで思わず周りの人の顔を盗み見ました。皆以外と平静で、終った時には、「よかった、よかった」と言って手をとり合ってる。僕は内心「こりゃ、まずいな」と思いました。後に残るは音楽でしょ。相当がんばらないといけんな、て悩みましたよ。出来上ってからジェレミーにそれを言ったら、どんな映画でもそうだと。ラッシュの時はそんなもんだそうで。新ためて音楽の強さを認識させられました。だけど考えてみたらそりゃそうなんで、例えば平凡なコーヒーカップを二分間撮っても、それだけじゃあ、他人(ひと)は観ないよね。しかしそれに意味ありげな音がくっついてりゃ、その平凡なコーヒーカップの二分間も意味もってきちゃうもの。映画っていうのは徹底的に意味の統辞法だなって思いました。基本が意味。

日頃やっている僕の音楽のつくり方とはエラい違い。だからやりがいがありましたよ、ブリッ子じゃなく。この仕事で自分に欠けているところを色々思いしらされました。自分の中の振幅(しんぷく)が大きくなったと思うし、今後の僕の音楽活動にすごく影響していくと思います。もちろん映画音楽を沢山手掛けるという意味じゃなくて。秋頃ソロ・アルバムをリリースしようと思ってますから、自分でも楽しみですね、きっと変わると思います、今までとはいくらか。表現がもっとオープンになったらいいですね。少し喋り過ぎました、この辺で・・・。

目眩い皮膚の葛藤

唐十郎



チェスの盤に将棋が踊り込んだのか、将棋にチェス駒がまぎれ込んだのか、色違いの目眩く皮膚の葛藤がある。西と東の男達が繰り展げるその葛藤は、戦争と人間の構図でよく使われるヒューマンな交通ではなく、不可能性の対話と呼ぶべきものである。しかも、大島渚はここに登場する人物達に、それこそが官能の絶対値であることを感じさせる因子を鋳ち込んでいる。そのような磁場があったことを告げるたけしの悲哀のこもった「メリークリスマス・ロレンス」は、これを見るロレンスの子供達に、ある種の戦慄感を抱かせながら釘付けさせるに違いない。(『戦場のメリークリスマス』講談社刊より抜粋)

人類への日本人論

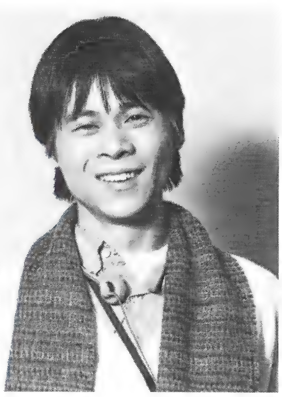
横尾忠則



ぼくが観た「戦場のメリークリスマス」は、まだ、スーパーが入っていなかったため、英語のせりふの理解に苦しんだ。だけど、そのことが全く問題にならないほどその映像表現は自立していた。大島渚の終始一貫した主題が、今度もまた、われわれの想像力の領域に深く食い込んできた。日本人が、日本と世界に向けて発した、「人類」のための日本人論である。

二種類の台詞が鍵

糸井重里



この映画にはハリボテの「希望」などない。全ての登場人物の各々が抱えこんでいるモノサシが、ちゃんばらを演じている。モノサシ同志を刀がわりにして切り合いをせねば生きて行けぬ状況が描き出される。互いに理解し合うことも、究極的には不可能で、勝者も敗者もなく全てが敗れ去った。だが、「希望」へのヒントはある。それはこの映画の台詞が「怒鳴る大声」と「つぶやく小声」の二種類に分けられている、ということだ。いまは、それくらいしかいえない。(『戦場のメリークリスマス』講談社刊より抜粋)



狂おしく美しい男

中島梓

ここに登場する人々はみな、それぞれに何か想念に憑かれている。憑かれた男たちは狂おしくも美しい。それは『狂人と聖者と兇賊にしか興味がない。あとは俗衆が』というユイスマンスの言葉を思い出させる。

そして、このまさしき『狂人と聖者と兇賊』だけの世界の中で、金髪のデビッド・ボウイは、ひとりのエロティックな『受難のキリスト』である。この映画は新しいゴルゴダの丘の物語である。



苦難の末の優しさ

やまもと寛斎

この映画、男が非常に優しい。私にとって優しさとは〝一見〟のことではなく、男が一生懸命、字の如く、一生を懸けて自分の考えを貫き、そして磨き上げること。大島監督と懇意にしていただき、私は氏にその優しさを感じた。洋服を創ることよりも、それ以上に人生をいかに完成させるかといったことに興味ある私にとって、想像を絶する苦難と摩擦を超えた末の優しさ溢れるこの映画との出逢いは実に感動的であった。(談)



男の友情とロマン

山口小夜子

大島監督さんは、去年、やまもと寛斎さんのファッション・ショーのモデルとして登場され、幸運にも私は同じステージに立ちました。照れながらも真剣なお姿に監督さんとしてではなく、別の面を発見し、すばらしい方だと思いました。

この映画では、戦争を背景に、男たちのドラマが描かれ、激しさと静けさの中での男の友情とロマンに、とても感動しました。



STORY OUTLINE OF MERRY CHRISTMAS MR.LAWRENCE

Set in a Japanese prisoner of war camp in Jara during World War II, this story tells about men who, inspite of the differences and barriers that separate them, achieve a certain understanding of each other as humans. Each with his own code of honor and his own shadows of the past, they are brought together into the extreme circumstances of war.

Hara (Takeshi) wakes Lawrence (Tom Conti) and leads him to the site of an execution as a witness. Lawrence who has lived in Japan prior to the war is, according to Hara, the "only one who understands us". Kanemoto (Jonny Okura) is to be executed by Hara fot raping a young Dutch soldier, De Jong (Allistair Browning). Lawrence cannot agree with Hara's action and calls for Cpt. Yonoi (Ryuichi Sakamoto). Yonoi who has not been informed of the execution, orders Hara to report the execution to him later, because he must leave to attend a court case in Batavia.

Celliers (David Bowie) is being tried as a war criminal, but he continues to assert his innocence. Yonoi finds himself attracted to this cool, brave soldier. Although Celliers is sent before the firing squad, as the smoke clears away it becomes clear that the guns were all blan shots. He is then taken away to the prison camp, where he met his old friend, Lawrence. Yonoi shows his interest in Celliers that Lawrence cannot understnd and orders that Celliers should be healed quickly. Hicksley, the leader of the p.o.w., (Jack Thompson) enters the room and receives the order to supply the names of those informed of the subject of armaments and ammunition. Hicksley refuses that and Yonoi threatens to replace him. Lawrence realizes why Yonoi is interested in Celliers.

Yonoi decides to carry out Kanemoto's execution and all allied senior officers are ordered to attend it. As Kanemoto's head is severed, De Jong bites his tongue and dies. The men turn to leave with De Jong's body, but are stop ped by the Japanese soldiers. Yonoi is infuriated that they have not remained to pay their respects and asks Lawrence if he is right or not. Lawrence replies that they are all wrong. Further infuriated, Yonoi orders all the prisoners to observe "gyo", a ritual of fasting and

meditation to cure the spirit of laziness. However, Celliers hides some cakes in a basket covered with flowers and brings them to the patients in the hospital. Suddenly soldiers rush in and discover food. Celliers is imprisoned along with Lawrence who has been falsely accused of bringing a radio into the camp.

In prison, Yajima attacks Celliers who he believes is disrupting Yonoi's soul. Celliers overcomes Yajima and escapes to find Lawrence. As they try to leave, they are confronted with Yonoi, but Celliers disappoints Yonoi by not taking up his challenge.

Lawrence is informed that he must die to maintain Yonoi's sense of order, but that night, Lawrence and Celliers are led in front of beaming and very drunk Hara who frees them because he claimes to be Father Christmas. "Watashi wa Fazeru Kurismasu", he says in the only English he knows.

As Hicksly still refuses to produce the names, Yonoi orders all prisoners to line up in the yard. He then proceeds to question Hicksly and still receiving no information, he threatens to execute each officer in turn until he does. As he is about to execute Hicksley, Celliers calmly advances and grasping Yonoi by the shoulders, slowly kisses him on each cheek. Yonoi collapses from the shock and Celliers is dragged off to be buried alive.

* * * *

The war has ended and it is now Hara who is in prison to be executed. Lawrence arrives to visit him and they reflect on the happenings at the camp. As Lawrence is about to leave, he hearts the familiar voice of Hara barking. "Lawrence !". He jerks around instinctively. Hara smiles and says, "Merry Christmas, Mr. Lawrence. Merry Christmas !"





MERRY CHRISTMAS MR. LAWRENCE

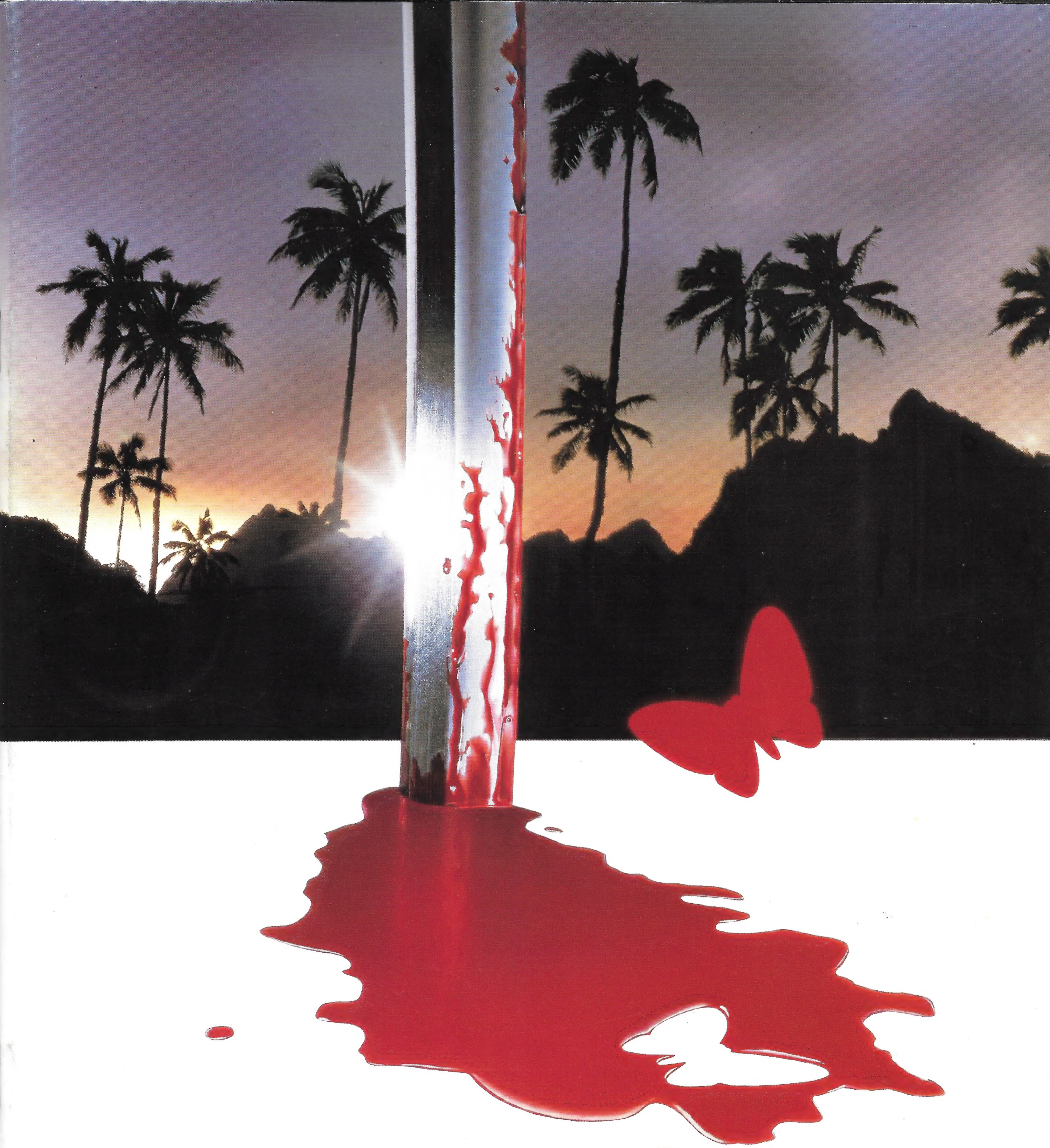
CAST

Celliers……DAVID BOWIE
Lawrence……TOM CONTI
Captain Yonoi……RYUICHI SAKAMOTO
Hara……TAKESHI
Hicksley……JACK THOMPSON
Kanemoto……JOHNNY OHKURA
De Jong……ALISTAIR BROWNING
Celliers' Brother……JAMES MALCOLM
Celliers 12 Years……CHRIS BROUN
Commandant of Military Prison……YUYA UCHIDA
President of Military Court……RYUNOSUKE KANEDA
Lieutenant Iwata……TAKASHI NAITO
Prosecutor……TAMIO ISHIKURA
Interpreter……ROKKO TOURA
Lieutenant Ito……KAN MIKAMI
PFC Yajima……YUJI HONMA
Corporal Ueki……DAISUKE IIJIMA
New Commandant of Camp……HIDEO MUROTA
Chief Doctor……BARRY DORKING
Australian Doctor……GEOFF CLENDON
P.O.W Officer……GRANT BRIDGER
P.O.W's……RICHARD ADAMS
GEOFF ALLEN
MICHAEL BAXTER-LAX
MARK BERG
MARCUS CAMPBELL
COLIN FRANCIS
RICHARD HENSBY
RICHARD HOARE
MARTIN IBBERTSON
ROB JAYNE
RICHARD MILLS
MARK PENROSE
ARTHUR RANFORD
STEVE SMITH
STEPHEN TAYLOR
RICHARD ZIMMERMAN
English Guard……IAN MILLER
Pastor……DON STEVENS
Japanese Soldiers……YOICHI IIJIMA
SATOSHI ITO
MASAKI KUSAKABE
KUNIHIDE KURUMA
HIROSHI MIKAMI
AKIHIRO MASUDA
TOKUHISA MASUDA
TAKESHI NAGASAWA
TAKASHI ODASHIMA
MASANORI OKADA
SHOETSU SATO
RINTARO SHIBATA
MASAMICHI SHIBASAKI
KANAME SHIMURA
KENZO SHIRAHAMA
HISAO TAKEDA
HIDENOBU TOGO
ATSUO YAMASHITA
HEIWA YOSHIHARA
TAKESHI YU

STAFF

Executive Producers……MASATO HARA
EIKO OSHIMA
GEOFFREY NETHERCOTT and
TERRY GLINWOOD
Producer……JEREMY THOMAS
Directed by……NAGISA OSHIMA
Screenplay by……NAGISA OSHIMA with
PAUL MAYERSBERG
Based on the Novel……"THE SEED AND THE SOWER"
by SIR LAURENS VAN DER POST
Director of Photography……TOICHIRO NARUSHIMA
Production Designer……JUSHO TODA
Music by……RYUICHI SAKAMOTO
Associate Producers……JOYCE HERLIHY
LARRY PARR
Production Assistant……KUNIKO USUI
Location Manager……TAKASHI SHIRAI
Production Co-ordinator……MARGARET HILLIARD
Production Secretary……VIVIEN BRIDGEWATER
Producer's Assistant……SEVILLA DELOFSKI
Production Accountant……TONY HEDGES
Assistant Accountants……LYNNE NEWPORT
MITSUE FUJITA
Dialogue Coach, Assistant to the Director……ROGER PULVERS
1st Assistant Director……LEE TAMAHORI
2nd Assistant Director……JONTY BARRAUD
3rd Assistant Director……GEOFF HILL
Continuity……RAIJIN NAKAHATA
Camera Operator……HIROAKI SUGIMURA
Focus Puller……ANDY ROELANTS
Clapper/Loader……RICK ALLENDER
Gaffer……WARREN MEARNS
Best Boy……DON JOWSEY
Electrics……GEOFF MAINE
IAN BEALE
IAN PHILP
BRENDON MUNE
Generator Operator……TEX FOOT
Interpreter……DIDI DICKSON
Key Grip……BRIAN HARRIS
Grips……DENNIS CULLEN
JEFF O'DONNELL
Art Director……ANDREW SANDERS
Assistant Art Directors……TETSUYA HATAYA
KAZUMASA NOMURA
Set Dresser……MASARU ARAKAWA
Property Master……SHOICHI YASUDA
Property Buyer……LYN BERGQUIST
Property Assistant……PAM SEEBOLD
Stand By Props……CHRIS PAULGER
Stand By Props Assistant……TREVOR HAYSOM
BRYAN McDONALD
Construction Manager……KYOICHI HASHIMOTO
Construction Technicians……RYOICHI KAMON
MASAAKI KOBAYASHI
YUTAKA WAKASE
Wardrobe Supervisor……CHRISTINE WEST
Wardrobe Master……KAZUO MATSUDA
Wardrobe Assistants……NORMAN FORSEY
LESLIE GILDA
Make Up Supervisor……ANTHONY CLAVET
Chief Make Up……ROBERN PICKERING
Make Up Assistant……BRYONY HURDEN
Hairdresser……GLENIS DALY
Sound Recordist……MIKE WESTGATE
Boom Operator……EUGENE ARTS
Sound Effects and Dubbing Mixer……AKIRA HONMA
Editor……TOMOYO OSHIMA
Assistant Editor……KENICHI TAKASHIMA
Negative Cutting……KIMIE KAWAGISHI
Stills Photographer……KEN GEORGE
Stills Photographer and Casting, JAPAN……TAKASHI UENO
Casting, NEW ZEALAND……DIANA ROWAN
Armourer……RALPH GARDINER
Transport Manager……ROBIN ALLEN
Nurse……SUSAN NICHOLAS
Brother's Song Composed by……STEPHEN McCURDY

提供／松竹富士株式会社　レイアウト／㈱ヘラルド・エース　発行／松竹株式会社事業部　**定価400円**



A JEREMY THOMAS PRODUCTION ／ A NAGISA OSHIMA FILM

MERRY CHRISTMAS MR. LAWRENCE